

令和四年度 中学生の「税についての作文」受賞作品

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

消費税の信頼性とインボイス制度

武蔵野市立第一中学校

小室 大晴

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

未来へ紡ぐ税

学校法人井之頭学園藤村女子中学校

福田 結菜

武蔵野納税貯蓄組合総連合会会長賞

芸術と税金

東京都立武蔵高等学校附属中学校

安田 湖夏

武蔵野市長賞

一人一人を支える税金

武蔵野市立第二中学校

佐藤 樟弥

武蔵野市教育長賞

文化財の保護にも使われている私達の税金

武蔵野市立第三中学校

山浦 理菜子

武蔵野税務署長賞

ふるさと納税の在り方

武蔵野市立第一中学校

濱 頭 成

東京都立川都税事務所長賞

税に気づき、理解すること

東京都立武蔵高等学校附属中学校

久 米 葵 子

東京税理士会武蔵野支部支部長賞

二パーセントの大きさ

武蔵野市立第五中学校

荒 井 杏 菜

一般社団法人武蔵野青色申告会会長賞

僕の考える新しい税金

武蔵野市立第五中学校

山 本 祐 輔

公益社団法人武蔵野法人会会長賞

相続税と私達の生活

武蔵野市立第一中学校

向 莉 未

武蔵野間税会会長賞

税が繋ぐ世界の豊かさ

東京都立武蔵高等学校附属中学校

吾 妻 真 希

税金の役割について

武蔵野市立第二中学校 相澤果歩

税によって救われる命

武蔵野市立第三中学校 村越咲紀

税の使い道・少子高齢化を変えるため・

武蔵野市立第四中学校 小杉凌大

使い道を模索せよ

武蔵野市立第四中学校 町田瑞樹

税金用途の可視化

武蔵野市立第四中学校 西脇百恵

税とサッカーとわたしたち

武蔵野市立第六中学校 板鼻航誠

標準税率が十五%の日本

武蔵野市内中学校 丹羽ななこ

私が払う税「消費税」

学校法人井之頭学園藤村女子中学校 北村エレナ

税金と私たち

学校法人聖徳学園中学校 高橋莉子

もし税金がなかったら

学校法人聖徳学園中学校 高瀬有紗

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

消費税の信頼性とインボイス制度

武蔵野市立第一中学校 三年 小室 大晴

「来年からインボイス制度が始まる。がんばらないとな。」僕の父は会社で経理の仕事をしている。何やら消費税の仕組みが変わるので、システム対応や会社の人達への説明などで忙しいらしい。仕組みが複雑になって手間も増えるそうだ。

父の狙いは、この際、新しいシステムや仕組みを導入して仕事を楽にする工夫もいっぱいして、「インボイス制度は慣れるまで大変だったけど、経理の工夫で楽になる部分もあったから良かったよ。」とみんなに思ってもらいたい。ピンチはチャンスだそう

だ。

消費税は一番身近な税金だ。コンビニでもレストランでもレシートに必ず書いてある。それほど、みんなに影響のある仕組みをなんで複雑にするのだろう。気になったので、父に詳しく聞くことにした。

消費税は、毎日の生活で広くみんなが負担する税金なので、消費者にとって「痛税感」が高い。そのため、支払った「消費税」がきちんと納税される仕組みの信頼性を高めないとけない。

会社は消費者から預かった消費税から支払った消費税を引いた残りを納税する。今は、消費税の納税を免除されている事業者への支払についても消費税を支払ったとして預かった消費税から引くことができるので、その分消費者から預かった消費税が納税されない仕組みになっている。これが消費税に対する不信感の大きな原因となっているので、これをなくす仕組みがインボイス制度だ。

インボイス制度では、消費税を納税している証となる番号などが記載された請求書の消費税についてのみ、預かった消費税から引くことができる。また、請求書の消費税額を売手と買手の会社が一致させることで「相互牽制作用」が発揮され、それぞれに消費税の正しい納税を促すことになる。

インボイス制度は、消費税の信頼性、透明性を高める仕組みなのだ。

EUの消費税、付加価値税では巨額不正還付が問題になっているそう。日本の消費税でそんなことが起きたら消費税への不信感が高まるだろう。インボイス制度で消費税の信頼性、透明性が高まるなら、複雑になったとしても導入すべきだと思う。

税金は、学校の教材などの教育、道路、警察など、安心安全な社会を守るためになくなくてはならないものだ。僕も働くようになったら税金をいっぱい納め、社会に貢献する大人になりたい。

しかし、税金の仕組みを会社の中から支える仕事を父がしていたのは知らなかった。経理の仕事について父にもっと聞いてみようと思った。

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

未来へ紡ぐ税

学校法人井之頭学園藤村女子中学校 二年 福田 結菜

私は税金について知るために様々な本に触れ、たくさん税金制度があることを知りました。世界でも意外なものに税金がかけられているものとして、ポテトチップス税は、肥満への対策であったり、犬保有税は、犬の増加対策であったりと、社会的問題を調整する背景があるため、時代を追ってみても多様に複雑な条件と絡み合って存在していました。

日本最古の税として「魏志倭人伝」では、租税を収める倉庫が置かれており、飛鳥時代には、租・庸・調のしくみが出来上がっていたので、生活には欠かせないものであったというのを窺い知ることができます。

当初は、長きに渡り一部の権力者に納めなければならぬものでしたが、普通選挙権によって税は国民が決め、支払うものになったことで一人一人が税制度に関心を持ち、納得をして支払う意識へ移行したため私達も把握し続ける姿勢が大切です。

日本は世界の中でも医療サポートが充実していて、私が住んでいる世田谷区は、眼科、小児科、歯科、耳鼻科等、様々に医療費助成があり、私は医療制度に日常を支えてもらっていることを身近に感じました。そして弟に関して生まれる前からサポートを受けていたことを知りました。それは、弟が母のお腹で二十週を迎えた頃、慢性的な難病だと分かり、母は産むか産まないかの選択を迫られました。更に産後すぐは高度な手術があり、覚悟やその後の家族との生活への決意が必要でした。各家庭の産む産まないの判断はどちらが正しいということではなく、費用によって左右されることなく、どちらにおいても助成があるというのは、単に費用だけのサポートだけにとどまらず、精神的にも支えてもらっていたそうです。出産は、出産一時金や高額療養費制度など助成制度があります。お腹の赤ちゃんの生まれてくれる力に全てをかけて出産に臨めたのも、真摯に向き合えたからで、私達家族が弟と一緒にいられるのも医療制度があったからです。我が家のように病気を持った家族が出産前から支えられていて、安心できる日本の医療制度で出産後も一人の命のために前向きに病氣と闘いながら家族といられる時間を大切に過ごすことができます。いる人達はたくさんいると思います。

このような素晴らしい医療制度があるから、私達は安心して生活していけるのだと思います。そして、目には見えない社会の税制度の仕組みによって私達は守られているのだと改めて感じる事ができました。命の尊さや人権を尊重する日本人の国民性はこのようにして恩恵を受け、受け継がれているのだと実感しました。

武蔵野納税貯蓄組合総連合会会長賞

芸術と税金

東京都立武蔵高等学校附属中学校 三年 安田 湖夏

私は美術館や文学館で展示を見ることが好きだ。新しいことを知ることは楽しいし、本物の絵画や自筆原稿を見ることが出来るからだ。展示を見ることは私の生きがいである。

一方で、それらの施設を税金の無駄だと感じる人もいるようだ。確かに、美術や文学の展示が直接生活の役に立っているように感じることはあまりないかもしれない。芸術にお金を使うくらいなら少しでも他の事業、例えば福祉などに使ってほしいと考える人もいるだろう。

だが、ふとした瞬間に芸術は我々に潤いを与えてくれる。先日、通学路にひまわりが咲いていたのを見かけた。ひまわりの燃える黄から、いつか美術館で見た、ゴッホの描いたひまわりのまぶしさやうねるようなタッチを思い出した。心の中に芸術が結びついていると、ふとしたときに思い出して、芸術で心に深みができると思う。文学館で新たに作家を知り、その後ファンになったこともある。

税金で運営される美術館や文学館は私たち市民に大きな心の豊かさを与えてくれる。一人一人がコレクションをして、一人一人が芸術を楽しむことは難しいが、みんながお金を出し合って、つまり税金を使ったらたくさんの方が本物の作品を見ることが出来る。物質的な豊かさだけでなく、精神的な心の豊かさまでの与えてくれる税金は素敵だと思う。

本物を見られる美術館や文学館はなによりも素晴らしいが、予算が足りず、本物を展示できない施設も多い。芸術は不要不急だ。後回しになるのも仕方ない。コロナ禍であるから、他にお金を使うべきところが沢山あるのだろう。とある文学館では、年間数百万の資料購入費がついているが、優先されるのは展示に必要なもので、高額資料はなかなか購入できず、寄贈に頼っているそうだ。

このように現在、文学館や美術館はコロナ禍によってさらに予算が減ってしまっている。このまま少しずつ使われる税の金額が減っていったら、人々が芸術から離れないでほしいと思う。コロナウイルスの対策にも税金を使わなくてはならないから、現在は予算があまりないことも仕方ない。だが、コロナウイルスのパンデミックが収束して、いつも通りの生活に戻った時、芸術にかけるお金がコロナ禍と同じくらいのままにはなってはいないだろうか、さらに減っているのではないかと危惧している。

もちろんすべてを芸術につぎ込むわけにはいかないこともわかっている。それでも、ほんの少しでもいいから税を芸術に使ってほしいと思う。税金は、私たちに豊かさを与えてくれる。目に見える身の回りの物も豊かさであり、また、税金のおかげで見られる芸術作品を見て感じた思いも目に見えないが、心の豊かさだ。素晴らしい作品や芸術家が世の中から忘れないようにするために、文化を守るためにも芸術に税を使ってほしいと思う。

武蔵野市長賞

一人一人を支える税金

武蔵野市立第二中学校 三年 佐藤 樟弥

日本では、納税をすることは全ての国民の義務である。そして、税金は国を支える最大の要素であるとともに、国民一人一人を支えるうえでとても重要なものであると思う。税金があるからこそ成り立つものは私達の生活に溶け込んでいる。それも一つや二つではなく、数多くがそうだ。消費税、相続税、法人税などの世の中の人々には数多くの税が課されている。それらを払うことは決して容易ではないだろう。しかし、その税は自分のためにも他の誰かのためにもなり、多くの人を支えているのである。たとえば、重い病気をもつ人のほとんどが「手術」という選択が可能であることだ。実際、私もその一人であった。

私は生まれつき「動静脈奇形」という血管の病を患っていた。動静脈奇形とは、健康な人と比べ、血管のつながりに異常が起きてしまう病気のことである。具体的には、通常動脈と静脈の間に毛細血管が網目状になっているところ、その毛細血管が先天的に欠損してしまっていることにより、動脈と静脈が直接つながってしまう病気のことである。悪化すると接続部に血管の塊ができ、そこには高い血圧がかかるために血管が破裂してしまったり、心臓に負担がかかって心不全になってしまう恐れがある。この病気を治療する方法は手術しかない。そのため、私は春休みや夏休み、冬休みを利用して手術を行う必要があった。なぜなら、私の場合腫瘍は右手にあり、手術後約一ヶ月は手を動かすことができないからだ。そうすると学校生活をスムーズに行うことができない。つまり、この病気を治すには多くの時間と、お金がかかる。入院した人達は退院する時に自身の入院の総費用が載せられた紙を渡される。私が初めて見た時にはあまりの高額に強い衝撃をうけた。しかし、実際に払ったお金は、ゼロである。その後四回入院したが、全てゼロである。なぜなら、日本には国民健康保険とよばれる制度がある上、市が助成金を出してくれているからだ。そして、国民健康保険の財源は国民健康保険税とよばれる税金である。また、市の助成金の財源は、市民税は固定資産税などの市税が六割を占めている。私達にとって病院が身近である為には、金銭面で税金に支えられていることが必要であるということ強く実感した。

私はもう病人ではなくなり、こうして今は右手で文を書いている。それは税金を支えられて多くの人力をかりることができたからだ。感謝の気持ちを持ち続けたい。そしてその感謝の気持ちを将来は納税というかたちで表していきたい。税金は一人一人を支えるとも力強い存在だ。将来私に納める税のうち、ほんの少しでも誰かを支える源になるならば、私にとってそれはとても嬉しいことだ。

武蔵野市教育長賞

文化財の保護にも使われている私達の税金

武蔵野市立第三中学校 三年 山浦 理菜子

私は、税金が国宝や重要文化財の保存や修理、強化をするために使われていることに一番興味を持ちました。私は歴史が好きで、よくお城を見に行っています。また、今年五月の修学旅行では、京都や奈良の国宝をたくさん見ました。これらの国宝や文化財は税金によって支えられていると知り、どのようにどのくらい使われているのか気になったので、調べてみました。

国宝や重要文化財の修理にも二種類あり、解体などを行って完全に修理する根本修理と、屋根の葺き替えや塗装修理を行う維持修理があります。また、文化財を公開するために、文化財を説明する説明板や情報機器の設置、展示なども税金で行われています。これらにあてられる税金の予算額は、令和四年度は一一二〇六百万円にのぼります。

また、文化財を災害から守るための防災費用や耐震費用にも税金が使われています。火災を防止するために、火災報知器や消火栓、放水銃などが設置されています。また、地震で崩れないように耐震対策として補強がされています。これらの防災費用、耐震費用に税金が一七六三百万円使われています。これらの文化財は、何百年も前に建てられ、今でも残る貴重なものばかりです。私は、このような多額のお金を使っても、日本の素晴らしい文化財は守っていくべきだと思います。

他にも、税金は私の大好きな城の石垣の耐震対策の補強にも使われています。熊本地震で熊本城の石垣が崩れてしまったことから、全国の石垣の耐震対策のために、税金が一九百万円あてられています。石垣を守るために、この事業を進めてほしいなと思いました。

国宝のために使われる税金は建物だけではありません。人間国宝と呼ばれている人たちが支援するための無形文化財特別助成金というものがあります。祖父母が住んでいる石川県で有名な伝統工芸品の輪島塗の沈金の職人さんも、この助成金を受けている一人です。これらの助成金に二三百万円使われています。このようなことにも税金が使われていることに驚きました。

調べてみて、国宝や重要文化財のために使われる税金の詳しい使い道について知ることができました。普段当たり前のように私たちが見に行っている文化財は、維持したり、補強したりするためにこんなにもたくさん税金が使われていることに驚きました。私は国宝や重要文化財のための税金は大切だと思います。まだ中学生なので消費税しか払っていませんが、今後社会に出たらもっとたくさん払うことになると思います。貴重な国宝や重要文化財を守るためにも、税金を払っていききたいです。

ふるさと納税の在り方

武蔵野市立第一中学校 三年 濱 顕成

私はテレビCMで、ふるさと納税でおいしいお肉がお得に食べられると知った。そこで父に相談してみたところ、「うちはやらない」と言われてしまった。母の周りの人はみんなやっていると聞いていたので、なぜだろうと疑問に思ったので父に聞いてみると、「市で医療費控除などの様々なサービスを受けているのに、他の市区町村に納めるのは違うと思っているからだ」と言っていた。

確かに私の住む街ではコミュニティバスが走っていたり、市の運営している施設がいくつもある。それは市民の税金で成り立っている。その税金が減ってしまうと今まで受けることのできていたサービスが受けられなくなってしまうのではないかと考えた。

実際、武蔵野市ではどれ位税金が減っているのかを調べてみると、令和元年度には、約七億二千万円がふるさと納税で他市へ流出していることが分かった。

ふるさと納税というのは、自分の故郷や応援したい地域に納税をすることで、過疎などにより、税金が減少している地域と、都市部との地域間格差をなくしていこうというものだった。しかし、最近ではお金を集めるために、返礼品を豪華で魅力的なものを競ってアピールし、本来の目的からずれてしまってきている。

改めて総務省のふるさと納税に関するホームページを調べてみると、自治体が国民にふるさと納税を呼びかけるアピール合戦をすることで地域に目を向けてもらうことがふるさと納税の理念の一つとして挙げられており、私は驚いた。政府がふるさと納税を導入した際には、まさか返礼品競争が起きるとは、考えていなかったであろう。

市のホームページによると、武蔵野市は、幸いにも他の税金があり、減少額が市税の歳入額に占める割合は二パーセント未満になっていて、現時点では財源不足になっていないことが分かり、少し安心したが、調べていくと何十億円も大きなダメージを受けている政令指定都市もあると知り、驚いた。ふるさと納税の制度が始まって約十四年になるが、そもそも始めた目的を思い出し、制度の在り方、運用方法を見直す時期に来ているのではないかと私は考える。

税に気づき、理解すること

東京都立武蔵高等学校附属中学校 三年 久米 葵子

先月末に、母が新型コロナウイルスに感染した。症状は軽く、基礎疾患も持っていないかったため、自宅療養になった。父、弟、私は濃厚接触者となったので、家族全員が一步も外に出れないという状況になってしまった。

母が感染してから何日か経った頃、家に大きな段ボール箱が二つ届いた。東京都福祉保健局から無料で支給された食料品だ。私はその中身を見てとても驚いた。レトルトカレーやカップラーメン、粉末タイプの味噌汁などの簡単に調理できる食べ物に加えて、野菜ジュース、コーヒー、スポーツドリンクなどの飲み物もぎっしり入っている。他にも、パルスオキシメーターや抗原検査キットも無料でもらうことができた。突然外出ができなくなってしまうため隔離期間中はこれらにかなり助けられたのだが、私たちの代わりに、誰が買ったり届けたりするときにかかるお金を負担してくれているのかふと気になった。

調べてみると、これらは全て東京都の予算、つまり都民の税金から支給されていることが分かった。東京都の令和四年度の補正予算の総額約四三〇〇億円のうち、食料品やパルスオキシメーターの無料配布を含む「自宅療養の適切な実施に向けた支援」の項目が七九五億円を占めていた。

今まで、種類や使われ方については小学生の時に習っていたのでなんとなく知ってはいしたが、普段の生活で税について深く考えることがあまりなかった。しかし、コロナで困ったときに東京都からの心強いサポートを受けられたおかげで、税のありがたさ、重要さに改めて気づかされた。

一方で、税に関して心配な点もある。令和四年度の国の歳入のうち、所得税や消費税などによる収入がある中で、一番割合が大きかったのは国債と呼ばれる国の借金だった。なんと歳入の総額の約三分の一である。私は国が毎年国債を増やし続けてしまっているのを知っていたが、これほど金額が大きいとは思っておらず、とても衝撃的だった。更に調べてみると、日本は二〇一九年にGDPに対する国債の割合が世界一位になってしまっていたことが分かった。コロナ対策に関する莫大な費用が必要になったことで、今後更に国債が増えることが予想される。今すぐに財政を立て直すべきかもしれないが、その分国民の負担が増えて多くの人が苦境に立たされてしまうため、何も考えずに増税するのは良くないと言える。現在の日本の財政は、かなり危機的な状況にあるのではないかと思った。

税は、国民を様々なところから支えてくれる、なくてはならないものである。だからこそ、今国の財政は大変なことになっているというのを皆が理解し、きちんと税を納めたり解決策について関心を持ったりしていくことが重要だと思う。

二パーセントの大きさ

武蔵野市立第五中学校 三年 荒井 杏菜

二〇一九年十月一日。消費税の税率がこれまでの八パーセントから十パーセントへ引き上げられた。また、特定の品目には、これまでのように八パーセントの税率が適用されることになった。当時小学校六年生だった私は、「税率が二パーセント上がるということ」は百円のものから百八円から百十円になるぐらいだから、たいして変わらないのではないかと。」と思っていた。しかし、今思えば、値段が上がるにつれて、当然だが、税を支払う金額が増えていく。百円のものを買うときの税率八パーセントと十パーセントの金額の差はわずかに二円だが、十万円のものを買うときの差は、二千元にもなる。さらに高額な家などを購入する場合、税率が二パーセント異なるだけで、税を払う金額が何十万も異なってしまう。ちなみに、今住んでいる家は、増税直前の二〇一九年九月に近所のマンションから引っ越してきたので、両親はもしかすると増税のことも視野に入れていたのかなと思った。(実際のところは分かりません。)

ただ、二〇一九年以前と同様に、八パーセントのままの商品もあるというのだ。その対象の商品は、「酒類・外食を除く飲食料品」、「週二回以上発行される新聞(定期購読契約に基づくもの)」だ。ここで私は疑問に思った。「軽減税率」は、所得が少ない人への配慮のために作られたようだが、そもそも飲食料品一つ一つに消費税はほとんどかからない。また、生活に必要な不可欠だという視点で飲食料品を軽減税率の対象にするのであれば、テイスリューパーやトイレットペーパー、洗剤なども対象にするべきである。また、同じ飲食料品においても、提供のされ方の違いによって税率が異なる。「外食は十パーセント、持ち帰りは八パーセント」と簡単に考えていたが、よくよく調べてみると、軽減税率が適用されるかどうかの区別は難しいことが分かった。例えば、あなたが映画館へ行き、売店でポップコーンを買ったとする。それを売店に設置されたテーブルで食べると標準税率、上映されるシアターに持ち込んで映画を見ながら食べる場合は軽減税率が適用される。新聞に関しても変だ。本当に生活が苦しい人であれば、新聞を定期購読しないだろう。しかも、そのような人々が望むのは、先ほども記述した通り、「生活に必要な不可欠なもの」ではないのか。物資については前で述べたが、水、ガス、電気などのサービスの料金は、いずれも十パーセントに引き上げられている。これらの増税で困っている人もいるだろう。

十パーセントと八パーセントの違いは、小さいようで大きい。だからこそ、軽減税率を適用するのであれば、今のような曖昧な区別ではなく、区別を明確にするよう考えることが必要である。

一般社団法人武蔵野青色申告会会長賞

僕の考える新しい税金

武蔵野市立第五中学校 三年 山本 祐輔

世界には変わった税金がたくさんある。例えば、イギリスのロンドンでは「渋滞税」という税金があつて、エコカーや二輪、バス・タクシーは払わなくてもいいが、ある地域を走る場合に、千五百円ほどの税金がかかる。事前に支払うか、当日に支払わないと監視カメラでチェックされているので、罰金がかかるそうさ。この税金が始まったことで、公共交通機関や自転車・徒歩・バイクを利用する人が増え、実際に効果があつたそうさ。また、アメリカのウエストバージニア州には「光るおもちゃ税」があつて、火花やおもちゃの銃など、激しく光が出るものや、火花がでるものが課税対象となっている。銃犯罪や凶悪犯罪の防止を目的としていて、実際に結果があつたと言われている。

もし僕が新しい税金を作るとしたらどんな税金がいいだろうか。うまく思いつかなかつたので、母にいくつか例をあげてもらつた。その中でぼくは自然を守るための税金がいいなど思つた。今年も海に行つたが、水がきれいで気持ちよかつた。ずっと海がきれいであつてほしいなと思つたからだ。

そこでぼくが考えたのは、「海水浴税」だ。僕は湯河原に海水浴によく行くが、海の家やシャワーでボディソープを使いたいと思つたが、母がシャワーを下の砂浜に流しっぱなしなので、使つてはいけないと言つた。砂浜が汚れるからだ。でもたくさんの人がシャワーやボディソープを使つていた。海で泳ぐときに、日焼け止めをぬる人も多いと思う。でもそれは海を汚すことになってしまう。僕たちは海で遊ばせてもらつたり、おいしい魚や貝や海藻をただでもらつている。海にお金を払つて買つてはいない。ちよつとならごみを捨ててもいいだろう、ちよつとならシャンプーを使つてもいいだろうと思うかもしれないが、それがきれいになるまではきつととても時間がかかるだろう。海にはマイクロプラスチックの問題もある。海を汚さないことが一番だが、海水浴をする人にお金を払つてもらつて、そのお金で砂浜をきれいにしたり、シャワーの排水をそのまま海に流さないような工夫ができたりするのではないかと思う。

今コロナが流行つていて、普通の生活が送りにくくなつているが、世界で人が動かなかつた時期には、海も川も空気もきれいになつた。人間が自然を汚しているということになると思う。僕たちが住まわしてもらつている地球を少しでも守るためにも、「海水浴税」があつてもいいなと思つた。

相続税と私達の生活

武蔵野市立第一中学校 三年 向 莉未

昨年の冬に祖母が亡くなった。葬儀が終わり、相続の話になった時に初めて私は「相続税」というものを知った。税金といえば「消費税」や「所得税」ぐらいしか知識になかった。なので「相続税」について調べてみようと思った。

「相続税」は「相続や遺贈等によって取得した財産が一定金額を超えた場合にかかる税金」のことで、「遺産の総額が一定の金額以下であれば発生しない」そうだ。この相続税が発生する一定の金額のことを「基礎控除額」といい、「三〇〇〇万円＋六〇〇万円×相続人数」で求めることができる。ということは、すべての人が支払い対象になるわけではない。東京都では一〇〇人に相続が発生したとすると一四人程度、岩手県では四人程度の人が相続税申告が発生するらしい。この割合をみると、払う人より払わなくていい人のほうが多いということがわかった。

私は「基礎控除額」の考え方は良いと思う。遺産は親が遺した形見だ。親からの最後のプレゼントといってもよい。国がそのことを考慮したかはわからないが、残された遺族への思いやりを感じた。今回の機会がなければ、「税金はみんな払うもの」というイメージをもっていたので、払わなくていい人のほうが多い税金もあるんだなと思い、改めて税金の種類の多さを実感することができた。

私達が学校で使っている教科書の裏表紙には、「この教科書はこれからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれている。調べてみると、国の歳出の五パーセントの五兆三九〇一億円ものお金が教育関連に使われているという。自分が持っている教科書には何の税金が使われているのかはわからないが、もしかしたら自分が払った消費税や祖母の相続税が使われているかもしれないと考えると、知らない間に人の役に立っている、また祖母と繋がっているような気がしてとても嬉しかった。

私もいつか「相続税」を考える日がやってくるかも知れない。その時は、「払いたくない」と拒絶から考えるのではなく「廻り廻って自分や家族のためになるかもしれない」「人助けだ」という方向から考えて、故人を偲びながら手続きを進めたい。

武蔵野間税会会長賞

税が繋ぐ世界の豊かさ

東京都立武蔵高等学校附属中学校 三年 吾妻 真希

税の役割とは何だろうか。国税庁のホームページには「国民の『健康で豊かな生活』を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となるもの」と紹介されている。私も税金とは国や都道府県、市区町村などの範囲で課税、運用されるものだと思っていた。しかし税の学習を通して、世界には国境を越えた「国際連帯税」という税金があることを知り、グローバルな視点に気付かされた。

国際連帯税とは国境を越えた世界規模での経済活動を課税対象とした、グローバルタックスの一つだ。新型コロナウイルスにみられるような世界的なパンデミックや地球温暖化、食糧不足、貧困、教育・医療の格差など現代社会は国家の枠組みを越えた問題を数多く抱えている。これらのグローバルな課題を解決していくためには、国際社会の協働やそのための資金が必要不可欠だ。国際連帯税は従来の政府開発援助とは異なり、援助国の利益に左右されず、一定の資金量を確保することができる方法として導入が進んでいるのだ。すでに導入されているものとしては「航空券連帯税」が挙げられる。飛行機に搭乗する際の航空券に課税をする仕組みで、現在フランスを中心に十数か国が参加している。集めた税金は「ユニットエイド」という発展途上国において三大感染症の診断、治療へのアクセスを簡単にすることを目的とする国際機関に拠出される。誰かの旅が誰かの健康の助けとなる。税金は「取られるもの」というイメージがあつたが、国際連帯税を知り、「皆で豊かさを共有するツール」なのだと感じた。

税の役割は人々が健康に、豊かに暮らしていくための社会の支えとなることにある。情報社会といわれる今、人々のコミュニティのあり方は変わりつつある。支える社会が変化するのなら、税の仕組みや税を納める私たちも変わる必要がある。今こそ、世界規模での税金による協力の輪を広げていくべきだ。現在、日本では国際連帯税の導入はされていないが、国内での関心は高まりつつある。税金によつて国際社会に貢献できる仕組みをより多くの人知ってほしいと思う。貧困、感染症、環境破壊、気候変動、食糧不足。現代社会にあふれる問題は今や一国の力では解決できないほど複雑化している。世界中の一人ひとりがこれらの問題を自分の事として向き合い、協力していかなければならない。国際連帯税の導入が世界の支援の架け橋になることを願っている。